

〔徒然草 下〕世にはこゝろえぬことのおほきなり、ともあることには、まづ酒をす、めて、しるのませたるを興とする事、いかなるゆへとも心えず、のむ人のかほいとたえがたげに眉をひそめ、人めをはかりてすてんとし、にげんとするをとらへて、ひきとゞめて、すゞろにのませつれば、うるはしき人も、たちまちに狂人となりて、をこがましく、息災なる人も、めのまへに大事の病者となりて、前後もしらずたふれふす、いはふべき日などは、淺ましかりぬべし、あくる日まで、頭いたく物くはずによひふし、生をへだてたるやうにして、昨日のことおぼえず、おほやけわたくしの大事をかきて、わづらひとなる、人をしてかゝるめを見すること、慈悲もなく、禮義にもそむけり、かくからきめにあひたらん人、ねたく口おしと思はざらんや、人の國にかゝるならひ有なりと、これらになき人事にてつたへき、たらんは、あやしくふしぎにおぼえぬべし、人の上にてみたるだに心うし、思ひ入たるさまに心にくしとみし人も、おもふ所なく、わらひの、しり、ことばおほくゑぼうしゆがみ、ひもはづし、はぎたかくかゝげて、ようしなき氣色、日ごろの人ともおぼえず、女はひたひがみはれらかにかきやり、まばゆからず顔うちさゝげてうちわらひ、盃もてる手にとりつき、よからぬ人は、さかなとりて口にさしめて、みづからもくひたるさまあし、聲のかぎり出して、各うたひまひ、年老たる法師めし出されて、ぐろくきたなき身をかたぬきて、目もあてられずすぢりたるを、興じ見る人さへうとましくにくし、あるは又我身いみじき事ども、かたはらいたくいひきかせ、あるは醉なきし、下ざまの人は、のりあひいさかひてあさましくおそろし、恥がましく心うき事のみ有て、はてはゆるさぬ物どもをしとりて縁よりおち、馬車よりおちてあやまちしつ、物にものらぬきは、大路をよろぼひゆきて、つるひぢ門の下などにむきて、えもいはぬ事どもしちらし、年老けさかけたる法師の、小童のかたをおさへて、聞えぬ事どもいひつゝよろめきたる、いとかはゆしかることをして、此世も後の世も益あるべきわざならば、いか